（評価資料１）

研　究　課　題	1	イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究（28-32）
研究目的・背景	イヌワシの生息数が全国最多の岩手県では、2015 年までにのべ 34 つがいが確認されているが、近年つがいの消失が疑われる営巣地が増加し、確実な生息数は 28 つがい程と推定される。減少傾向が表れてきた背景には、長年に及ぶ繁殖成功率の低下があるとみられ、個体群を維持するために巣立ち幼鳥の増加を図っていく必要がある。 岩手県内のイヌワシの生息状況や生態的特性については、これまでの研究によって解明が進められてきた側面も多い一方、繁殖失敗の機構、移動分散の特性、遺伝的構造、新たなつがいの定着など、個体群の動向を把握するうえで重要な項目には、未だ不明、不十分な部分が少なくない。本研究では、前回の研究課題で着手、開発した調査手法を応用して上記の解明に取り組むとともに、基礎データとして重要な繁殖状況の詳細なモニタリングを継続する。また、個々のつがいの繁殖成績について、生息環境や地理的特性の側面から分析を行う。	
研　究　内　容	・　繁殖状況モニタリング（28～32） ・　ビデオカメラを用いた繁殖行動解析（28～32 年） ・　個体識別よる移動分散調査（28～32 年） ・　遺伝子サンプルの収集と DNA 解析（28～32 年） ・　地理情報を用いたつがいの繁殖成績の解析（30～32 年）	
評　価　結　果	**○　総合評価　Ａ（３人）・Ｂ（３人）・Ｃ（　人）・Ｄ（　人）** **○　総合意見** ・　イヌワシの生息維持に対して重要であり、かつ緊急性の高い研究課題である。 ・　保護の重要性は理解。環保センターとして長期にどこまで取り組むべきか要検討。 ・　本研究は、絶滅が危惧されるイヌワシの保全に向けた生態学的な研究であり、貴重な研究である。 ・　今後も様々な開発が計画されていることからイヌワシの保護対策は緊急性が高いと思われる。具体的な保護対策につながる研究成果が期待される。 ・　イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究は緊急・重要性が非常に高く、総合的な評価はA評価と考える。 ・　既往の３期 14 年間の研究実績により、解明された点、未解明の点の整理が不十分であり、ルーティン的に研究が取り組まれている印象を受ける。基礎的継続的な研究実績のある繁殖状況調査・解析に注力して成果を取りまとめ、新規部分については、別途、外部資金申請に当てるなど、内容の切り分けが必要ではないか。	
センターの対応方針	**①研究計画のとおり実施**　２一部見直しの上実施　３今後再検討　４実施しない （コメント） 保護対策の策定に資する知見の収集・解析に努めるとともに、外部資金獲得も含め、外部機関等との連携をさらに拡大し、研究を進める。	